

平成26年度 第1回人権教育ミドルリーダー育成講座実施報告

平成26年6月13日(金)
人権・地域教育課

1 期日等	平成26年6月3日(火)	県立同和問題関係史料センター
2 参加者	第2期受講者：8名 第3期受講者：11名	
3 日程	13:30~13:45	開講式
	13:45~14:05	講義『人権教育の推進についての基本方針』の具体化について 人権・地域教育課人権教育係長 細井司
	14:05~15:20	講義「自尊感情を育む集団づくり」 関西大学文学部教育文化専修 磯野雅治
	15:30~16:20	グループ討議、まとめ
	16:20~16:30	事務連絡

4 事業実施内容(概要)

(1) 講義『人権教育の推進についての基本方針』の具体化について

- 人権教育推進の基本的視点、基本方向について説明。

(2) 講義「自尊感情を育む集団づくり」

- ありのままの自分でいられない状況に息苦しさを感ず、表面的なつながりの中で孤独感を感じている子どもたち。
- 今、人権教育を進める上で最も大切にしなくてはならないことは、自尊感情を育むこと。
 - ・自尊感情は、集団の中で人間関係を通じて育まれるもの→「集団的自尊感情」(大阪成蹊大・園田雅春さん)
 - ・うぬぼれと自尊感情の決定的な違いを認識する。
 - ・「いいところさがし」だけでは、自尊感情は育たない。
 - ・本当の自尊感情とは、欠点を含めた自己を肯定的に受けとめる感情である。
 - ・周囲から肯定的なまなざしで認められることで育まれていく。
- 集団の質の高まりと共に、個々の自尊感情も育まれる。
- 集団づくりで大切にしたい3つの側面
 - ① 子どもとつながる人間関係づくり
 - ② 子どもと子どもをつなげる仲間づくり
 - ③ 地域、保護者とつながる協働づくり
- 問題が起こった時が学級づくりのチャンスである。「いい学級」とは、問題のない学級ではなく、問題を共有している学級である。



(3) グループ討議(テーマ「自尊感情を育む集団づくり」)

- 教師の子どもを見るまなざしや声のかけ方が大きく影響する。
- 片思いでもいいので、「好きだよ。大切に思っているよ。」というメッセージを子どもたちに伝えていきたい。
- まず、教師が笑顔で活動を楽しむこと。その姿が、子どもたちのよいモデルとなる。
- 1年間を通じた班活動で変わっていく子どもたちの姿に触れ、日常の細部の活動の大切さを改めて感じている。



(4) まとめ(講師より)

- 重要なのは、教師がどんな学級観をもって集団づくりに取り組むかということ。
- 「違って一緒に」が大事。一人一人違って一緒に学級をつくっていく。
- 課題を背負う子に対して、シンパシーをもち寄り添うことで、子どもの本当の姿が見える。

5 受講者の感想等

- 「あかんとところもあるけれど、うちのことに気になってんねん。」この磯野先生に紹介いただいた新保真紀子さん(神戸親和女子大)の言葉に、自尊感情の本質が見えたような気がした。私自身の自尊感情がこの講座を通して、高まったように思う。
- 学級のありよう(ちがいを認め合える学級、自分がありのままでいられる学級など)と自尊感情を支える4つの感覚(包み込まれ感、社交性感覚、勤勉性感覚、自己受容感覚)の関係がよくわかり、子どもたちが安心してできる環境づくりの必要性がよく分かった。
- やたらと褒めても子どもたちの心には響かず、欠点も含めて受けとめてもらえる環境が大事だということを保護者とも共有する必要がある。「集団が高まってこそ個人の自尊感情が育つ」ということも参考になった。早速、勤務校にもち帰り、職員全体に伝え、集団づくりの大切さを確認し合った。